

英語都々逸・ローマ字都々逸研究

菊池真一

一、英語都々逸の種類

都々逸の中に英語を採り入れたものを「英語都々逸」、ローマ字を採り入れたものを「ローマ字都々逸」とする。これには次のようなものがある。

英語のスペリングをアルファベットで記すもの。英語を仮名で記すもの。

日本語をローマ字で記すもの。英語は出てこない。

書名を示すと次のようになる。(「」内は角書)

- 『(流行) 英語度々逸』(明治四年序)
- 『(日本粹曲) ねもと調べ』(明治二十五年八月十日。安藤広放子(一之助)編。活版印刷)
- 『(言語注解) 英語土渡逸』初輯・二輯(一荷堂半水作・序)
- 『(西洋) 都々逸図絵』(白山人序)
- 『英語都々一』(長谷川貞信画)
- 『(蟹字混交) 漢語詩入都々逸』初編(明治四年序。三木光齋編)

『支那西洋国字度々逸』(初編・二編は明治四年序。船亭美吉作・撰)

『(漢洋取交) 都々逸図会』式編(明治四年序。三木光齋序)

刊年の明らかなものが、活版の『(日本粹曲) ねもと調べ』を除き、全て「明治四年」であるのは興味深い。

次に、諸本の所在を記す。

- 『(流行) 英語度々逸』国文学研究資料館所蔵
- 『(日本粹曲) ねもと調べ』菊池真一・国立国会図書館所蔵
- 『(言語注解) 英語土渡逸』初輯：菊池真一・国文学研究資料館・東京大学文学部国語学研究室所蔵
- 二輯：菊池真一・国文学研究資料館・早稲田大学・国立国会図書館(注一)・東京大学文学部国語学研究室所蔵
- 『(西洋) 都々逸図絵』菊池真一所蔵
- 『英語都々一』菊池真一所蔵
- 『(蟹字混交) 漢語詩入都々逸』東京都立中央図

書館特別文庫東京誌料所蔵

『支那西洋国字度々逸』

初編：国文学研究資料館・国立国会図書館（注

二）東京都立中央図書館特別文庫室東京

誌料（注三）所蔵

二編：菊池真一所蔵

三編：関西大学（注四）・早稲田大学所蔵

四編：東京都立中央図書館特別文庫東京誌料所蔵

八編：菊池真一・関西大学・東京都立中央図書館特別文庫東京誌料・国文学研究資料館

（注五）所蔵

『漢洋取交』都々逸図会』菊池真一・名古屋市蓬左文庫所蔵

以下、各本を翻刻紹介する。菊池所有本がある場合は、それに拠った。

『流行』英語度々逸』『支那西洋国字度々逸』初編については、国文学研究資料館の翻刻許可を得た。（国資学第546号。平成二十四年二月六日付）

『蟹字混交』漢語詩入都々逸』『支那西洋国字度々逸』四編については、東京都立中央図書館の翻刻許可を得た。（平成二十四年二月一日付）（平成二十四年二月八日付）

二、『流行』英語度々逸』

（国文学研究資料館所蔵）

序文の振り仮名は省略。本文も、英語ルビのついてる語句以外のルビは省略。右側ルビの英単語には「」がついている。その読みは「」に入れた。左側ルビは（）で括った。英語は筆記体で書かれている。

編者・山々亭有人は明治三十五年（一九〇二）に没している。

国文学研究資料館の翻刻許可を得た。（国資学第546号。平成二十四年二月六日付）

英語都々逸 全（表紙）

山々亭有人記

『流行』英語度々逸

東京 松林堂版（見返し）

方今一般流行なる。有益便利の横文字は。支那の横まち日本の横浜。横に車は通らねど豎に車の走れる国は。英語を記憶なす時は。横行自在ならざる事なし。とばかりいへど横道辺鄙横町新みちなどいふ。世間しらずの住土地は。何と読やら横ぞつぽう横紙破りに睥睨もあらんと例の書房が老婆心に。横眼遣（ママ）ひの艶めきし。彼都々の横合へ通語を加えて梓となせしが。何さま是は便利よと。横手を打て御称美ある様。只歴冀ひまつるになん

辛未秋

山々亭有人記（一才）

(絵)「(一ウ)
(絵)「(二ノ三オ)
なんぼ浮世が逆さまぢやとて客が飯「False「フヨール
ス」(うそ)つき女郎を騙「Cheat「チート」(だます)」
(二ノ三ウ)
わしにや杉田の梅より酸「Sour「サヨマル」(すい)
も甜「Sweet「スウエート」(あまい)もくるふ人」
(四オ)
わたしが醜「Bad「ヘッド」(わる)けりやサア殺「Kill
「キイル」(ころ)さんせおまへにまかせた」の体「Body
「ボデー」(からだ)」(四ウ)
逃「Runaway「ロンニウエー」(にげ)て二人は田舎
のすまいなれぬ機織「Weaver「ウイーフル」(はたを
り)ちん仕事」(五オ)
はなれまいとの約束かたく立る屏風「Screen「スクリ
ーン」(ひよぶ)蝶つがひ」(五ウ)
しやんと意「Idea「マイチー」(こころ)に鎖「Lock
「ロック」(こやこ)まへをるし鍵はおまへの胸「Chest
(テイスト)」(むね)しだい」(六オ)
つとめする身はあのかし浴衣「Bathingdress「バスシイ
ドレス」(ゆかた)あすはどなたと汗「Sweat「スウエ
ット」(あせ)になる」(六ウ)
冠「Crown「クラナヌ」(かむり)つけて羽織「Longcoat
「ロングコート」(はをり)を着てもほんに寸志のな
い男「Male「メール」(おとこ)」(七オ)
死「Dead「デッド」(し)ぬほむ恋しし吾儕「I or me

「アイミー」(わたし)のやまひお医者「Physician, Doctor
「ワイジシニヌ ドクトアル」(いしや)さんでもな
をりやせぬ」(七オ)
乳人「Nurse「ナルス」(おんば)そだちのあの娘「Misslady
「ミシレヂ」(ぢやう)さまが冬「Winter「ウイヌタ
ル」(ふゆ)が来てさへまだ裕」(八オ)
二階「Floorstory「フルーアルストーリー」(にかい)せ
かれてゐる身につらく何所の坐鋪「Barlowhall「バー
ルロアルホール」(ざしき)かあのさわぢ」(八ウ)
人に賢固「Stiff「スチフ」(かたい)といわれたわし
が愚「Stupid「スチューピット」(おろか)しいほど熱「Hot
「ホット」(あつ)くなる」(九オ)
風「Wind「ウエヌド」(かせ)の柳「Willow「ウイ
ロー」(やなぎ)にまかせているが勤「Diligent「チリ
ゼヌト」(つとめ)する身の常ぢやぞへ」(九ウ)
ふとした吾儕「We or us「ウエーユス」(わたし)の
心得違「Mistake「ミスデーキ」(こころへちがひ)逢
ぬ従前「Formerly「フョーアルマルリ」(むかし)に
してほし」(十オ)
早「Ealy「イアルリ」(はや)く聴度「Hear「ヒア
ル」(ききたい)色よい返事「Report「リホールト」
(へんじ)雁「Wildgoose「ワイルドグース」(かり)
の便りもあねばよ」(十ウ)
明の鶺「Crow「クロー」(からす)と鶏「Cock「コッ
ク」(こはとり)やにくや可愛「Love「ローウ」(か
あい)おひとの眼「Eyes「アイズ」(め)をなます」(十

一才)
 稀偶「Seldom」セルドム」(たまたま)来ながらあれ
 性急「《スペリング判読不能》「フームヘーチヌス」(せい
 きゆう)な月夜「Moon Nighttime」ムーナイトタイ
 ム」(つきよ)がらすに帰るのか」(十一ウ)
 金「Gold」ゴールド」(きん)銀「Silver」シルヴ、ル」
 (ぎん)「いくらでも買れぬものはたつたひとつの意」「Idea
 「アイチイ」(ニヤル)情願「Feeling」フリーリ」(い
 き)」(十二オ)
 久鋪「Long time」ロンタイム」(ひさしく)あはずに
 忽然「Accidentally」エキシデスタリ」(ふと)御目も
 じ悦「Glad」グレイッシュ」(よろこぶ)間もなし明のと
 り」(十一ウ)
 手「Hand」ハメド」(て)に鍋「Pan」パヌ」(なべ)
 さげよが雑巾「Mop」モプ」(ぞうきん)差がおまへ
 と添ならいとやせぬ」(十三オ)
 鶯鴛の眞実「True」《スペリング後半判読不能》「ツル
 リール」(まじと)何ひらやましニツ枕「Cushion」コ
 スシヨス」(まくら)にひよく草蓆「Rushmating」ロ
 シメツチン」(くさ)」(十三ウ)
 ぬしとわたしを天秤「Scales」スケールス」(ばかり)
 にかけりやどちの情実「《スペリング判読不能》「ジユ
 ウ」(まじと)が重「Heavy」ヘウヱ」(おも)いやら
 (十四オ)
 円「Round」リヨヌド」(まる)いばかりは転びもあれ
 ば角「Square」スクウエール」(かく)もあれかし人

意「Idea」アイチイ」(ニヤル)」(十四)
 待「Wait」ウエント」(まち)どこよひは顔さへ出さ
 ず雲「Cloud」クラウド」(くも)が邪摩「Hinder」ヒ
 ヌダル」(じやま)する秋「Autumn」オーツム」(あ
 き)の月「Moon」ムーヌ」(つき)」(十五オ)
 二人り馴たる都「Capitol」カピタン」(みやこ)をは
 なれなれぬ鄙「Country」カヲヌトリ」(いなか)の村
 「Village」ウヱルレヅ」(むら)すまぬ」(十五ウ)
 内や床しとぞし睇「Look」ルーク」(のぞ)かる、竹
 簾「Bamboo」《スペリング後半判読不能》「ベムブーヲ
 ニン」(すだれ)をろした船「Ship」シツプ」(ぶ
 ね)の中」(十六オ)
 ぬしが死「Dead」デット」(しん)だらあの尼寺「Nunnery
 「Monestory」(あまぢら)がふえて居「Live」リー
 ウ」(ぬ)どじがさぞなかる」(十六ウ)
 わけも無「None」ノヌ」(ない)ことツイ疑「Doubt」ス
 ペリング後半判読不能「ダウトチマル」(うたぐる)
 も遠「Far」フハール」(とを)くはなれてくらすゆへ」
 (十七オ)
 エノもひるさいどふしたものだ風邪「Cutuls takes
 cold,catchcold」ケタール、テークス「トルド、ケツチ
 エコールド」(かぜ)かうわさかこの打噴「Sneeze」ス
 ニーズ」(くしゃみ)」(十七ウ)
 酔「Drunk」シ「ヌク」(えふ)てわたしが講「Speak
 「スピーキ」(いふ)のぢやないがこつ癡「Mad」マ
 ツド」(きちがい)には誰がした」(十八オ)

たまに面「Face」フエース」(かほ)見「See」シー」
(み)りやつい嬉「Glad」グレット」(うれ)しさに
話「Say」サー」(はなす)「とさへ後「After」アフタ
ル」(あと)や先「First」ファルスト」(さき)「十
八ウ)

ぬし有「Have」へウ」(ある)爾儕「Ye」イー」(お
かた)になぞかけられて羸「Spelling」判読不能」ウ
「オス」(とく)にやとかれぬ三重の帯」(十九オ)

いかに苦界の朱に雜「Mix」ミキス」(まじ)われど
精神「Health」ヘルス」(こころ)の真「True」ツル」
(まこと)を売「Sell」バイ」(うり)はせぬ」(十九
ウ)

妻「ife」ウアイフ」(つま)といわれにや朋友「Friend
「Friend」(ともだち)しうに爾嘸「Thine or thy」ザ
イヌザイ」(おまへ)たつまへ我嘸「Mine or my」わ
たしや」なお

先「First」ファルスト」(さき)もとくしんまだ父母
「Parents」ペーレンツ」(ふたおや)の許「Spelling」
判読不能」「ヒチシヨヌ」(ゆるし)うけねどわしが
夫「Husband」ホズバンツ」(つま)「(二十ウ)

花「Flower」フロール」(はな)のあたりのみな深山
樹「Tree」トリー」(き)で外山「Besides」ヒサイツ」
(ほか)見変「Transform」タランスフォルム」(かへ)
る人はない」(二十一オ)

気抜「Crazy」クルージ」(きぬけ)するほど思ふて居
るを聾「Deaf」(こゝろ)ほむにも届きやせぬ」(二十

一ウ)

三、『日本粹曲根元しらべ』

(菊池所蔵)

《活版印刷。内題には「日本粹曲」ねもと調べ」とあ
る。本書は、国会図書館「近代デジタルライブラリー」
において文化庁長官裁定のもと、公開されている。英
語都々逸の部分のみ紹介》

〔英語漢語〕都々一集

英語読込情歌

Cat and dog と降つても帰す残る未練の涙 rain

Money が敵よ身は人のもの But 心は主の妻

物事 Think で瘦たる Me を捉へて太いは余まりだ

なまじ A voice 聞たが迷ひ夜な夜な待ぞへ The cuckoo

Cuckoo

恋路処か Rice が高価い色ぢや Belly がふくりやせぬ

Answer 取る手を遅しと披き斯で有るうと掻く Head

love に上下の隔ては無いよ Moon も夜な夜な宿る水

今更ステッキとは情ない杖と頼みしアノ Man が

どうすりや宜かと Stand sit ちれて待夜の其長や

Always 怨みし後朝後朝なれど明て嬉しい初 Crow

ear に口あて私が胸を鼻舌其折や eye なみだ」(三十四)

広い earth 妾しの胸に叶ふた男は Sir 一人

可愛い男に Letter 送り色よい返事を Wait か
 大事がられた Cage を逃げて余所で苦勞を Sparrow
 見合の日までは Wife と成気鬚が有たら negative
 住は都も Country でも Nightingale が梅に啼く
 Wine お呑みも pro. でも買な稼いで儲けたはした丈け
 Forget せぬぞへお前の事は氣障の Talk の出るたびに
 Snow の even Rain の night 私しや降られる氣で運ぶ
 名指しの Bisiter 主だと思ひ来て見りやいつもの Bad
 man
 写真取出し Stove 側でイツカ思案に暮れ gong
 My lover よも云出す迄は咽に three days ためた唾
 Upper mouth にや遂載られて lower mouth に落易ひ
 ready はよいか上南無阿弥陀仏 dye と一声床の上 (三
 十五)

……
 明治二十五年八月八日印刷
 全 年 全月廿日出版 定價五錢
 編者 安藤一之助
 發行兼印刷者 名古屋市黒門町七十二番戸
 桜井仙右衛門
 名古屋市小田原町三十二番戸
 發兌所 博文社活版所
 同市同町同番戸
 金誠堂
 同市本町二丁目
 売捌所

四、『言語注解』英語土渡逸

初輯・二輯(菊池所蔵)

恋々山人とは一荷堂半水のこと。同人は、明治十五年(一八八二)に没している。

房庵恋々山人作

『言語注解』英語土渡逸

連声堂蔵版(見返し)

自序

夫浮連哥(どゞいつ)の流行なすこと。既に五大州にひろがりて。漢語まじりはいふもさらなり。今や此冊は。英語をカタカナ詞にまじへて。其恋情を穿ちたる新作奇妙の文句なれば。左りに其音のまことを誌し。尚片カナの読やすからんために。真仮名にて右にする。四方の通君子。これを懐にして諷ひ玉は。日本人はおるか。外国人迄。興に入。ミヤウデイスト爾云浪華 一荷堂主人半水(吉オ)
 スリーフテール「すりいふている」(袖泪)としらずにぬはデンプネス「でんぷねすみ」(しめる)身をなんのかの(吉ウ)
 キルーン「きるうん」(浄き)こゝろでいふひと言をデイルテイ「でいるてい」(汚れたる)なるにくてぐち(二オ)
 待夜はロング「ろんぐ」(長き)とおもふているにあへばシヨルト「しよると」(短き)わかれした(二ウ)

ブロード「ぶろつど」(広き) 世界もぬしゆへわたしやナルロウ「なるろう」(狭く) くらすよこの頃は「(三オ)
ぬしのゲレート「げれいと」(大きな) 気をあんじるよスモール「すもうる」(小さい) おんなのこころでは「(三ウ)
うつくしスピーキ「すぴいき」(言ば) もふやめさんせ恋にハイロウ「はいろう」(高低) あるじやなし「(四オ)
フアル「ふある」(遠き) ところもつい来さんすりやニール「にいろ」(近く) おもふよわしが気は「(四ウ) たまさかフエツト「ふへつと」(こへたと) おもふた中をまたもリン「りいん」(やせさす) なことば尻「(五オ)
シユーターブル「しゆうていぶる」(ほどよく) おまへの世事でトウエル「とうゑる」(まよひ) ましたよころから「(五ウ)
レフト「れふと」(右と) ライト「ライト」(左) に月花と見てくらすお前のハルト「はると」(こころ) では「(六オ)
テイリプ「ていりぷ」(深き) おもひもおまへの胸にやヨンテイーフ「をんていひふ」(あさひ) とおもはんせう「(六ウ)
レイト「れいと」(おそかれ) はやかれやく束かけてぬしのワイフ「わいふ」(妻) となるならば「(七オ) まことリットル「りつとる」(少き) おまへとしらず実

をつくしたテルリフル「てるりふる」(おそろしき)「(七ウ)
気はストロング「すとろんぐ」(つよき) でなにいふこともウイーク「ういひき」(よわき) わたしのおんな気は「(八オ)
キリル「きりる」(娘) こころの一すじものをぬしはベツヂル「べつちる」(ためきを) 見るやうに「(八ウ) ケツト「けつと」(猫) なでこへしていわさんすへツト「へつと」(にくき) おまへのそのしだら「(九オ) シルリオン「しるりをん」(百万) だらいふたることもウオン「うをん」(一ツ) も聞ずにそのうわ気「(九ウ) やくそくした日はベツト「べつと」(蝙蝠) とおなじトウイライト「とういらいと」(黄昏) をまちかねる「(十オ)
ナイト「ないと」(夜) デート「でいと」(昼) でまちあかしてもコツト「こつと」(切る) したじか今に来ず「(十ウ)
ミーシ「みいし」(思ふ) おまへはそしらぬ顔でわたしやカライ「からい」(泣) のほかはない「(十一オ) ハシド「はしど」(帯を) とくまもわしや気がせける久々ミート「みいと」(あふたる) の首尾なれば「(十一ウ)
ぬしもとらんせそのデレウルス「でれうるす」(ふんどしを) わたしもぬぎますこのナイト「ないと」(寝まき)「(十二オ) しほるスリーフ「すりうふ」(袖) 見すてにくやコ口

ーク「ころろく」(羽織)着さんすわかれぎわ」(十二ウ)
 プリント「ぶりんと」(めくら)「デイフ」でいふ」(つんぼ)でわしや居る連もハルト「はると」(ころろ)がしるぞへその悪性」(十三オ)
 フィンゲル「ふいんげる」(指)切りへール「へいる」(髪)と切りてそのうへ添れにやいのちまで」(十三ウ)にくひよおまへの此ウイリル「ういりる」(陰茎)はゆくさきゆくさきはら立て」(十四オ)
 ウイドウ「ういどう」(やもめ)ぐらしよあれ此ころはほんに逢たい人は来ず」(十四ウ)
 ゲスト「げすと」(客)の気でありやこれほどまでになんのおもふぞフル「ふうる」(遊女)でも」(十五オ)胸のスモーク「すもうく」(けぶりの)いつきへるやらヒート「ひいと」(あつい)おもひもなひ人で」(十五ウ)
 ダルク「だるく」(くらき)おもひも今宵ははれてほんにうれしきベツトルーム「べつとるむ」(闇のつち)「(十六オ)
 スリトプ「すりとぷ」(眠ル)うちさへおまへのことはフォルゲツト「ふをるげつと」(忘るゝ)のひまはない」(十六ウ)
 ドウト「どうと」(うたがひ)ぶかいよラフー「らふう」(わらふ)て主は居さんすころろのにくらしや」(十七オ)
 テイリーム「ていりいむ」(ゆめにみる)さへ又ぬしの

ことフォルゲツト「ふをるげつと」(忘るゝ)間)のないにつけ」(十七ウ)
 シンキ「しんき」(沈む)フロウ「ふるう」(ながれ)の身はうきつとめうかむ時節はいつじややら」(十八オ)チート「ちうと」(しから)さんした其いひぐさを人にトーク「とうく」(はなす)もてれかくし」(十八ウ)モルニング「もるにんぐ」(朝)さへナイト「ないと」(夜)といふてわかれおしむよ適(たま)の首尾」(十九オ)
 わたしのボディ「ぼでい」(からだ)もこふなるからはぬしのボディ「ぼでい」(からだ)とおもひつめ」(十九ウ)
 わるいベルリ「べるり」(腹)よレーンス「れいんす」(腰)おしてまたもわたしを案じさせ」(二十オ)
 ワイン「わいん」(酒)のきげんか主やまたしてもピツトル「びつとる」(にがい)無理さへいわさんす」(二十ウ)
 (広告)
 東京
 藤岡屋慶治郎
 梶屋喜兵衛
 浪華
 河内屋忠七
 同 清七
 本屋安兵衛
 境屋卯八郎「裏見返し」

英語都々逸 全 (表紙)
房庵恋々山人作

「言語注解」英語土渡逸
連声堂蔵版 (見返し)

二輯序

英語 (いぎりす) 度々。幸ひに流行して。今や第二篇を偏 (あむ) に。其言語の異なるおかしみ。そつくり日本風 (こちら) へ取て捻こみ。新規に恋情浮連哥 (うかれうた) と。こじつけ作が横浜から。神戸は元より外国迄も。諷 (うた) ひはやらせたまふことを。ひたづら願ふとまふす者は

浪華北陽

恋々山人半水誌 (巻オ)

クード「ぐうど」(善)《よい》(ベツド「べつど」(悪)《あしき》)もよくしりながらヘートフォル「へゑとふをる」(可恨)《にくき》)のいひぐさは「(吉ウ)

フレスト「ふれすと」(胸の)スモーク「すもつく」(けぶり)を(またつ)のらせてメン「めん」(夫)《おつと》(はそ)しらぬ空いびき「(二オ)

シヤードウ「しやあどう」(日かげ)者じやといはれてゐるにスタル「すたる」(星)のかげほど逢ぬ人「(二ウ)

テイウ「ていう」(露)ライム「らいむ」(霜)の身とあきらめていつそ消へたい我ミン「みいん」《おもひ》(三オ)

こゝろの「ロード」(ころうど)「(雲)フオグ「ふをぐ」(きり)とはれてウイント「ういんと」(風)添寝のク

ール「くうる」(すゞみ)床「(三ウ)

クール「くうる」(涼)ウインド「ういんど」(風)身にそふからは待にかゝあるこのナイト「ないと」(夕部)「(四オ)

ゾンドル「ぞんどる」(雷)さんさへわしや嬉しひよナイト「ないと」(今夜)おまへをとゞめては「(四ウ)ブレスト「ぶれすと」(胸の)スモーク「すもつく」(けぶりの)いつ消るやらたよりなひ人まちこがれ「(五オ)スノウ「すのう」(雪)ウインド「ういんど」(風)はげしき夜さもエツト「えつと」(添る)ことならいとやせぬ「(五ウ)

はれたアイリツト「あいりつと」(目ぶたを)かくされもせずトウカライ「とうからい」(泣)フアース「ふゑひす」(顔)手前でも「(六オ)

モツド「もつど」(泥)ウオートル「うをうつとる」(水)そだちじやとてもハルト「はると」(こゝろ)はおまへに清くもつ「(六ウ)

アイ「あい」(目)さきばかりでしらすして居れどブリジ「ぶりじ」(橋)わたしがしてほしひ「(七オ)

モルニング「もるにんぐ」(朝)じやとて主やせわしなひウエニング「いうゑにんぐ」(夕部)の顔もせず「(七ウ)

エソウル「えんをうる」(一時)まつ気であるものをにくやエモンヅ「えもんづ」(一月)またされりや「(八オ)

トウイライト「とういらいと」(黄昏)はおもふてゐる

にぬしと逢ときやトウドウン「とじどつん」(夜があける)「(八ウ)
マストル「ますとる」(君) あしらひもふやめにしてど
ふぞワイフ「わいふ」(妻) にしてほしひ」(九オ)
ブロード「ぶろうど」(広き) 世界もついこころからテ
ルロウ「てるろう」(狭く) おもふよこのころは「(九
ウ)
ぬしのベルリ「べるり」(腹) とわたしのベルリ「べる
り」(腹) 合して寝たいよいくナイト「ないと」(夜さ
も)「(十オ)
紙をあてゝはこのアイブロウ「あいぶろう」(眉毛) と
つてそふ日はいつじやある」(十ウ)
インキ「いんき」(墨) ステンド「すてんど」(すゞり)
またそばにおきレットルれつとる」(書物《かきもの》
してさへおちつかぬ」(十一オ)
ベットルーム「べつとるうむ」(閨房《ねや》)のウン
イドウ「ういんどう」(窓) 明て見ればうれしや月あか
り」(十一ウ)
フトンケル「ふとんける」(指) きるへール「へゝる」
(髪) 切るからはどふてもお前にやはなりやせぬ」(十
二オ)
うは気ハルト「はると」(こころ) のおまへに惚てリー
ン「りいん」(やせる) おもひよこのころを」(十二ウ)
レーンス「れへんす」(腰を) おされてあれ又そんなわ
るひベルリ「へるり」(腹) をいはさんす」(十三オ)
ヘント「へんと」(手と) ヘントをまたとりかはしデー

ル「ている」(なみだ) こぼしたわかれぎわ」(十三ウ)
リーン「りいん」(瘦る) はづだよおもひにこがれウイ
ドウ「ういんどう」(やもめ) ぐらしのわたしなら」(十
四オ)
ロング「ろんく」(長き) 夜でさへシヨルト「しよると」
(みじかく) も思ふぬしとほどよく寝た夜さは」(十四
ウ)
クイド「くいど」(善) ベット「べつと」(悪) よく知
りながら無理もロフリー「ろふりい」(可愛) のつまり
から」(十五オ)
わたしやしん実ティーフ「でいゝふ」(深) のおもひぬ
しはにくらしランティーフ「おんていゝふ」(浅いおも
ひ)「(十五ウ)
恋に上下のハイロウ「はいろう」(たかひく) あるがそ
んなへだてはやめにして」(十六オ)
ライト「らいと」(右と) レフト「れふと」(左) にこ
とづてきひてハルト「はると」(こころ) ひとつにとつ
おみつ」(十六ウ)
シツキ「しつき」(厚き) おもひがシン「しん」(薄)
なるともいはにやおかれぬこのことを」(十七オ)
スリーフ「すりいふ」(袖を) ひかれておやはづかしひ
ワイン「わいん」(酒) のきげんかおかしやんせ」(十
七ウ)
スリトプ「すりとぷ」(眠る) うちにもテイリム「てい
りむ」(夢) 見ればやかたもうつゝにカライ「からい」
(泣て) 居た」(十八オ)

スウイト「すういと」(あまい)シヤープ「しやあぷ」
 (からい)はよくしつてゐてヒツトル「ひつとる」(に
 がい)おもひをさしやさんす「(十八ウ)
 きれぬレソル「れそる」(かみそり)かおやへトフオル
 「へとぶをる」(にくらしひ)こんな手ぎれにならふと
 は「(十九オ)
 コツト「こつと」(切の)エツト「えつと」(添の)と
 あたしんきらしどうぞキリルリ「きりるり」(明白)い
 はさんせ「(十九ウ)
 きへたあんどがこれへツピー「へつぴい」(幸)とひよ
 んなゼツト「ぜつと」(ところ)が中なをり「(二十オ)
 フアル「ふある」(遠き)ところもついで来さんすりや二
 ール「にる」(近き)おもひよわしがむね「(二十ウ)
 (広告)
 東京
 藤岡屋慶治郎
 椀屋喜兵衛
 浪華
 河内屋忠七
 同 清七
 本屋安兵衛
 境屋卯八郎「(裏見返し)」

五、『西洋』都々逸図絵

(菊池所蔵)

編者・白山人は、梅亭金鷲の別名。同人は、明治二
 十六年(一八九三)に没している。

「西洋」都々逸図絵 全「(表紙)

詩入り都々逸世に行はれ。続いて漢語を混へしも。人
 珍として唄ひ囃し。テンと面白しの。座興の設けと成
 しを附こみ。西洋詞は惚気(のるけ)の隠語。ト一へ
 一寸水向けの。茶碗小鉢を叩いても。調子を外さぬ当
 世なれば。弥(いよいよ)請んと此小冊子にするすも
 のは 白山人「(序オ)

英吉利の胡弓

Bassvial「ばすびをる」

と号けしものにて木にて制るその模様いと見事なり小
 唄などうたふとときにこれをもちゆ「(序ウ)

亜米理加の太鼓

Tantam「たむたむ」

といふ名なりあかゞねと錫にて張たるものにしてその
 音いと高し日本のかんから太鼓のごとし「(一オ)

星の数ほど男はあれど月と見るのはぬしばかり

する(星)の数ほどめん(男)はあれどむっん(月)
 と見るのはぬしばかり「(一ウ)

馬車や蒸気じや便りがおそい伝信機たよりを聞せたい
 かる(馬車)やすちむ(蒸気)ぢや便りがおそいゑれ
 き(はりがね)便りを聞せたい「(二オ)

雨のふる日と日の暮方は何に付てもおもひ出す

れいん(雨)のふる日と日のいゝべん(暮)方は何に

付てもおもひ出す「(二ウ)
西も東も南もいやわたしやお前の北がよい
うえず(西)もいゝす(東)ものうす(南)もいやよ
わたしやお前の北がよい「(三オ)
お前死でも寺へは遣らぬ焼て粉にして酒で飲
ゆう(お前)てつす(死)でもちよるち(寺)へはや
らぬ焼て粉にしてうわいん(酒)で飲「(三ウ)
借りた金なら返しもしよが明の鐘ではかへされぬ
借りたもにい(金)なら返しもしよが明のりんぐ(鐘)
ではかへされぬ「(四オ)
つらい笑いは勤の習らい泣て嬉しい事もある
つらいらう(笑い)はじゆちい(勤)の習ひくらい(泣)
て嬉しい事もある「(四ウ)
逢ばたがいにくちからくちで言葉とがめにせなとせな
みいと(逢ば)たがいにくちからくちでをるど(言葉)
咎めにせなとせな「(五オ)
声はすれども姿は見えぬぬしは雨夜のほとゝぎす
ぼいす(声)はすれどもぼてい(姿)は見えぬぬしは
雨夜のほとゝぎす「(五ウ)
疑ひはれたら雲さへなくて月もこゝろも隅田川
だあゝと(疑ひ)はれたらくろつど(雲)なくて月も
こゝろも隅田川「(六オ)
雪の夕暮屏風のうちはおしのふすまに小鍋だて
すい(雪)のいゝぶん(夕暮)屏風のうちはおしのど
うる(ふすま)に小鍋だて「(六ウ)
吾が心は富士さんよりもそばにひつそり筑波やま

あい(わし)が心は富士さんよりもさいどくるッす(そ
ばにひつそり)つくばやま「(七オ)
酒のちやうしていふのぢやないがお前に限るとおもは
れる
わいん(酒)のちやうしていふのぢやないがゆう(お
前)に限るとおもはれる「(七ウ)
早く出雲へ飛脚をたてゝ末は婦夫(めうと)にしても
らふ
ふあすと(早く)出雲へほすと(飛脚)をたてゝ末は
まれいじ(婦夫)にしてもらふ「(八オ)
吾が心は急ぎの飛脚急(せけ)ばせくほどあつくなる
あい(吾)が心はふあすと(急ぎ)のほすと(飛脚)
急(せけ)ばせくほどあつくなる「(八ウ)
雪の寒苦しのいて今は花の兄きのわらひがほ
すのう(雪)の寒苦しのいてなう(今)は花のふる
さ(兄き)のわらい顔「(九オ)
家の不首尾と知つては居れど居続けするのは恋のくせ
はうす(家)の不首尾と知つては居れどすてい(居続)
するのほらふ(恋)のくせ「(九ウ)
胸に手をくみかんがへ見れば親父やおれより年がうへ
ちゑすと(胸)に手をくみかんがへ見ればふあゝざ(親
父)おれよりゑんじ(年)が(うへ)「(十オ)
ふつふつ今日(けふひ)は身につまされて落ぬ思案に
出るなみだ
ふつふつつてい(今日)は身につまされて落ぬしんき
(思案)に出るなみだ「(十ウ)

口でけなして心でほめて蔭でのるけて知らぬかほ
まうす(口)でけなしてみんど(心)でほめて蔭での
るけて知らぬ顔(十一才)
じみな恋なら真事とまこと雪のしら鷺眼にやたゝぬ
じみならう(恋)ならつりゆうとつりゆう(真事と真
事)雪のしら鷺眼にやたゝぬ(十一才)
人にすかれてうるさいならば程宜生れて来ぬがよい
めん(人)にすかれてうるさいならばふるへる(程宜)
生れて来ぬがよい(十二才)
お前も出しやうばいする身ぢやないか腹立顔すりや気
にかゝる
ゆう(お前)も出しやうばいするみぢやないかあんぐ
るふゑゝす(腹立顔)りや気にかゝる(十二才)
野辺の若草かり捨られて土に思ひの根をのこす
むうる(野辺)のくらツす(若草)かり捨られて土に
しんき(思ひ)の根をのこす(十三才)
鴉鳴でも知れそなものよ明暮お前の事ばかり
くろう(鴉)鳴でも知れそなものよいべりい(明暮)
お前の事ばかり(十三才)
秋が来たのかもみぢをちらす鹿と思案をせにやならぬ
をとむ(秋)が来たのかもみぢをちらすじいる(鹿)
と思案をせにやならぬ(十四才)
文にや真事がかいてはあれど筆にや狸の毛がまじる
れとる(文)にや真事がかいてはあれどペン(筆)に
や狸の毛がまじる(十四才)
思ふおかたと夏吹風はそつと入れたや我聞へ

らふ(思)ふおかたとさま(夏)吹風はそつと入れた
やまいべつと(我聞)へ(十五才)
俛になるなら樋竹(とひだけ)かけて寝て居て小便(ち
やうづ)がしてみたい
俛になるならどういん(樋竹)かけてすりぷ(寝て居
て)うりね(小便)がしてみたい(十五才)
お名はさゝねど一座の中(うち)に命も遣りたい人が
ある
ねいむ(お名)はさゝねどばるツ(一座)の中ならい
ふ(命)も遣りたいめん(人)がある(十六才)
竹にすゞめはなかよいけれどすへは敵の餌さしさを
ばあんぶ(竹)にすゞめはなかよいけれどすへはゑみ
ね(敵)の餌さしさを(十六才)
雨はしよぼしよぼ夜はしんしんと心細さよ犬のこゑ
れいん(雨)はしよぼしよぼないと(夜)はたあく(し
んしん)と心細さよどく(犬)の声(十七才)
お前ばかりが男ではないといふて心で泣て居る
お前ばかりがめん(男)ではないといふてまいん(心)
で泣て居る(十七才)
人の恋路のじやまするものは犬にくはれて死ばよい
めん(人)の恋路のじやまするものはどく(犬)にく
はれて死ばよい(十八才)
誰か来たそだ垣根の外で鳴た松虫音をとめる
ふう(誰か)来たそだふゑんす(垣根)の外でくらい
(鳴た)松虫音をとめる(十八才)
年の始めの新玉娘だいて根松やしめかざり

いゝる(年)のべきん(始)の新玉ぎやる(娘)だいて根松やしめかざり(十九才)
鷺か鴉かわからぬうちにはたの小鳥がそうぞしいへろん(鷺)かくろう(鴉)かわからぬうちにはたのばるど(小鳥)がそうぞしい(十九ウ)

六、『英語都々一』(菊池所蔵)

菊池は二本を所有しているが、共に、八丁・十二丁・十四丁が欠けている。これは後に欠けたのではなく、初めからこういう仕立てだったのではなからうか。

前半が漢語都々逸で、後半が英語都々逸。

右注(ルビ)は「」の中に、左注は()の中に
入れて示す。

作者不明であるが、明治初年のものであり、著作権は消滅していると考えるのが順当なところである。絵師・長谷川貞信が、初代であれば明治十二年没、二代目であれば昭和十五年に没している。このことから考えても、作者が戦後まで生き延びたと考えるのは無理がある。

英語都々逸

金随堂梓(表紙)

英語都々一

長谷川貞信画

金随堂綿屋梓(見返し)

漢語百々逸ノ部

よしや交誼「かうぎ」(ましはりのぎり)は立ずとまよぬしの偉烈「いれつ」(すぐれてつよき)を他よりも(吉才)
それと事状「じじやう」(ことのしだい)はまだ聞ねども顕然「げんぜん」(あきらかなことは)お前の素振では(吉ウ)
あれほど必然「ひつぜん」(きつとしたこと)した其ことばまたも変革「へんかく」(ふらためてかはること)しやさんせ(二才)
人眼潜行「せんかう」(しのんでゆく)して逢なかをにくや失策「しつさく」(やりそこない)さゝては(二ウ)
せめて一旦「いつたん」(ひとあさ)気をいれかへて常の隔心「かくしん」(へだてごころ)やめさんせ(三才)
熟慮「ぢゆくりよ」(よくよくかんがへること)して見りやなほさら主のことばに感銘「かんめい」(ふかくよるこびわすれぬこと)するばかり(三ウ)
すへのやくそく堅確「けんくわく」(かたくしつかりしたこと)とつてぬしの仁慮「じんりよ」(じひなおぼしめし)をまつばかり(四才)
わたしがいふこと主や尾撃「びげき」(しりへをうつこと)としていつか応戦「おうせん」(こちらからもたゝかふ)やみはせぬ(四ウ)
よしやおまへの国情「こくじやう」(くこじやうのじやう)

にせよ無理な応酬「おうじう」(へんとう)できはせぬ
(五オ)

いやよおまへの労詞「ろうじ」(ねぎらひことば)をやめて実な就約「じうやく」(やくそくきまる)しやさんせ「(五ウ)

愚論「ぐろん」(おろかなろん)俗論「ぞくろん」(いやしきろん)モフやめにして真実「しんじつ」応接「おうせつ」(おったい)きめてほし「(六オ)

おなごの微力「びりよく」(すこしのちから)と主や氣づよくもふりきりいなんす遺憾「ゐかん」(ざんねん)さは「(六ウ)

アレまたさんせと憤発「ふんはつ」(げんきをいだす)してもにくや疑心「ぎしん」(うたがひごころ)にいぬる氣は「(七オ)

それとこころで垂察「すいさつ」(すいりやう)すればまたも造言「ざうげん」(つくりことば)仕やさんす「(七ウ)

八丁欠
きめた約誓「やくせい」(ちかひ)ちがはぬやうにしかと答論「とうろん」(ろんをこたへる)仕やさんせ「(九オ)

うそのかづかづ発炮「はつぱう」(はなつてつほう)せずに実も発表「はつびやう」(あらはし)してほしひ「(九ウ)

慰勞「いろう」(つかれをなくさむ)さゝんす氣を嬉しひかしん実篤志「とくし」(あつきごころざし)は余所

へして「(十オ)

英語百々逸ノ部

口舌しながら寝エール「ゑいる」(る氣)が出たてテール「ている」(なみだ)の中から出る笑がほ「(十ウ) ナイル「ないる」(夜る)「デ」で「(昼る)心に逢つめながらカシル「かする」(当座)かつたよ逢夜さは「(十一オ)

びつくりしたナイ「ない」(夜に)氣がどきつくよ思はずラープ「らあぶ」(うれし)といふてから「(十一ウ) 十二丁欠。

このモルニング「もるにんぐ」(あさがらす)のからすを夜るとスリトプ「すりとぶ」(寝すこ)さしたようれしさに「(十三オ)

フエース「ふゑいす」(かほも)見られずモフこころはラープ「らあぶ」(うれし)い夢にも遠座かり「(十三ウ)

十四丁欠。

二「にひ」(ひぎ)にウオンナイ「うをんなひ」(ひと夜さ)と置なみださへいく夜さ私しのスリフ「すりふ」(そでに)とめ「(十五オ)

ラープ「らあぶ」(うれし)とおもふて苦をすればこそアイ「あい」(目に)立リンリ「りんり」(ほそ)に氣もつかず「(十五ウ)

レーン「れいん」(あめ)も粹してふりつゞくことわたしのためためテール「ている」(なみだ)ほど「(十六オ)

末のブヒミス「ぶひみす」(やくそく) さへちがはねば
エンナイト「ゑんないと」(ひとよさ) ぐらいとおもふ
ても」(十六ウ)

宵にやラープ「らあぷ」(うれし) い初会の人モモルニ
ング「もるにんぐ」(けさ) は恥かしつみなぬし」(十
七オ)

余所ではトウヘル「とうへる」(他人) といはれるにく
さ気やすめ計がワイフ「わいふ」(女房) かて」(十七
ウ)

スピツトル「すびつとる」(よだれ) 流して蕩氣(のろ
け) たときの今さらはづかしメール「ゑいる」(気が)
つきて」(十八オ)

切たりツトル「りつとる」(小ゆび) もまつ夜のかづに
いれてもエンナイト「ゑんないと」(ト夜) が逢ぬと
は」(十八ウ)

(広告)

書物画草紙問屋

大坂北はり江市場

綿屋徳太郎版

同心才橋塩町角

綿屋喜兵衛版」(裏見返し)

七、「蟹字混交」漢語詩入都々逸

東京都立中央図書館特別文庫室所蔵

編者・佐久良坊光斎は、歌川芳盛の別名。同人は、
明治十八年(一八八五)に没している。

東京都立中央図書館の翻刻許可を得た。(平成二十四
年二月一日付)(平成二十四年二月八日付)

「蟹字混交」漢語詩入都々逸 初編」(手書き題簽)(表
紙)

三木光斎編

「蟹字混交」漢語詩入都々逸 初編

東京 当世堂寿梓」(見返し)

自序

実難有

君が代に。生を請たる果報には。聞も馴ざる異国の様
殊に王制復古より。今専ら世上に流布なす漢語交りや
詩入の都々逸先に此道に聖たる。予が友なる山々亭有
人師度々小冊を顕せし所最も諸君の笑壺にいり。書肆
の活計満々たり。仍て同様僕も編で見度の貪欲が臍の
下より突上し。処へ幸ひ来る人は誰ぞ。是ぞ当世堂の
使説なり。ナント先醉漢語いり。又は詩《以下破損》
(一オ) 初編を綴れよと。書房の求に早合点下地は好
意なり御意はよし。ヨット承知と机上に向ひ。墨摺流
して毫取ば。中々是は六図ケ敷。不入事に手を出して。
飛で火に入夏の夜に。蚊帳の中で燈りを照し。何方の
引書や此方の写本と。汗を吹々書の如し

辛未晩夏日

忍ヶ岡蓮池の辺

佐久良坊光斎記書」(一ウ)

WO MA HE I YA DE MU WA TA SHI WA SU HI TA
 HO KA NO TO NO GO WA MU CHI HO SE NU
 (をまへいやでむわたしわすいたへのかの「わもち
 はせぬ」)(二オ)
 はるは花筵「くわえん」(はなのむころ)に気もうきつ
 きとすひたぶつで美酒「びつゆ」(よろこびをけ)佳
 音「かじん」(ちかやかな)(一ハ)
 HI ZA NI MO TA RE TE KA HO OO CHI NA GA ME
 DO FU SU RI YA OO TA GA I HA RE RU DA RO
 (ひざにもたれてかほつちながめとぶすりやうたがい
 はれるだる)(三オ)
 つきもくもりのせきちをうけて「送君還旧府明月満前
 川」はれてあぶ日をまじのかせ(三ハ)
 KA TA I KA TA I TO I MA MA DE I WA RE WO MA
 HE YU WENI WA KO NO SHI DA RA
 (かたいかたいといままどいわねをまへゆゑにて「の
 したら」)(四オ)
 すへの無遂「むすい」(なすとべる)とな赤繩「せき
 じやう」(えんむすぶ)よしなぐらつするみのかいがな
 ら(四ハ)
 HI TO ME SHI NO N DE HA NA SHI WO SHI TA GA I
 MA JI YA TA GA I NI WO MO TE MU KI
 (ひとめしのんではなしをしたがいまじやたがいにお
 もてむき)(五オ)
 ほようがてらといこしらへて「主人不相識偶坐為林
 泉」あへばなをますしやくのたね(五ウ)

I KI NA WO KA TA NI YA HO RE MA I MU NO YO
 HO KA DE MU KO N NA NI HO RE RU DA RO
 (いきなをかたにやほれまいものよほかでもいんなに
 ほれるだる)(六オ)
 かりにことつてつばめのたより「此地別燕丹壮士鬢衝
 冠」しらせたいぞく「むねを」(七ハ)
 NU TO ME WO WO KE RI YA HA NA SHI MU DE KI
 ZU DO FU SU RI YA SO WA RE RU KO TO JI YA RA
 (ひとめをうけりやはなこもどきちかぶらちやそわね
 る)とじややら(八オ)
 かうと諦明「たいめい」(あかしあきらか)いったいむ
 ねもぬしの心意「しんい」(しんるのしんるはせ)をき
 いてから(八ハ)
 YA RU SE NA I ZO HE HO RE TA GA I N KU WA TO
 TE MO SO WA RE ZA I NO CHI GA KE
 (やるせないぞへれたがいんぐわとてもそわれざい
 のちがけ)(九オ)
 やなぎにうければなたなをつけあがり「陌頭楊柳枝已
 被春風吹」さうもりくつがいったいか(九ウ)
 NU SHI WO MU HE BA MA TA NA WO SA RA NI YO
 RU MU NE RA RE NU MU NE NO OO CHI
 (ぬしをまへばまたなわらむにちるもねらねむねの
 うち)(十オ)
 嫉妬「しつと」(ねたみをんな)らしいか発言「ほつ
 ん」(はつする)とば)せねばぬしの浮情「ぶじやう」
 (うきなをけ)はやみはせぬ(十ウ)

SU HE NO TO RI ZEN TA NO SHI MU YO RI MO TO
OO ZA NO DA KI NE GA SHI TE MI TA I
(すへのとりぜんたのしむよりもとこのだきねがして
みたい) (十一オ)
おもひいだせばきもくをくちと「莫謾愁沽酒囊中自有
錢」くじつひつとくちをくちと「(十一ウ)
WO MA HE MU KA SE GU SHI WA TA SHI MU TO
MU NI SE TA I JI MI TA YO FU TA RI TO MU
(をまへもかせくじわたしもとせたいじみたよふ
たりとも) (十二オ)
いやとぶりたる薙刀「しとう」(なぎなた)のきずもと
めさくれたぬの鑰「そん」(やり) (十二ウ)
HI TO ME NA KE RE BA NA NI KO NO YA OO NI KO
GA RE A WA ZU NI WI RU MO NO KA
(ひとめなければなにのやうにこがれあわずにゐる
ものか) (十三オ)
はなのこずへにあのうべひすが「已見寒梅發復聞啼鳥
声」きてはちらちらまちはせる」 (十三ウ)
SA GI WO KA RA SU TO I OO TA GA MU RI KA YU
KI TO I FU JI MU SU MI DE KA KU
(さぎをからすといつたがむりかゆきといふじもすみ
でかく) (十四オ)
かげう勉強「べんきやう」(せいをいだす)しあげたう
へはとも遊快「ゆくわい」(じつるよくあそぶ)をた
のしみに」 (十四ウ)
OO KI NA TA TE JI TO WO MO HE BA JA MA NA MI

MI TO KU CHI TO GA NA KE RI YA YO I
(うきなたてじとをもくばじやまなみとくちとな
けりやよい) (十五オ)
せけんうはさとおまへはいふが「但見淚痕湿不知心恨
誰」ひとがないこといへはせぬ」 (十五ウ)
(広告)
扇子卸「地本」問屋 東京浅草茅町巻丁目
品川屋朝治郎版」(裏見返し)

八、『支那西洋国字度々逸』

初編・二編・三編・四編・八編

編者・船亭美吉(三好)は生没年不明だが、本書は
明治四年の刊行であり、著作権は消滅していると考
えるのが順当なところである。絵師・朝香楼芳春が明治
二十一年に没しているから、編者が昭和まで生き延び
たと考えるのには無理がある。

初編は国文学研究資料館所蔵本、二編は菊池所蔵本、
三編は関西大学所蔵本、四編は東京都立中央図書館特
別文庫所蔵本、八編は菊池所蔵本によった。初編につ
いては国文学研究資料館の翻刻許可を得た。(国資学第
546号。平成二十四年二月六日付)四編については、
東京都立中央図書館の翻刻許可を得た。(平成二十四年
二月一日付)(平成二十四年二月八日付)

『支那西洋国字度々逸』初編

支那西洋国字度々逸

朝香楼芳春画「(表紙)

支那西洋国字度々逸

船亭さく

芳春さかく「(見返し)

「支那西洋」国字度々逸初編序

俣よ三度の旅立も。開化て走蒸船。日本で呑し酒の酔。
まださめぬ間に。外国へ写りかはりし流向は。寝ころ
びながら。横文字を。読や唄ふの大一座。唐詩やかな
に吞直す。支那西洋の二ツもの御口に叶はず。二編三
編直あたらしき文句を撰みて調進致たせど御耳古く
おしかりあらば葉唄浄瑠璃取交ておいおい出板仕る本
屋主人に代りてスペルをのぶるはドロンケン組の次の
間居る

明治四未秋

酒気亭香織「(初一オ)

O MO O KO KO RO O ME KA O DE SI RA SE

(おもをこころをめかをでしらせ)

此日遊遊遊美女 此時歌舞入娼家

(このひがうゆうひじよをむかへこのときかぶしやう
かこいる)

I TSU KA HO NI DE RU HA NA SU SU KI

(いっかほにひるはなすすき)「(初一ウ)

A KE KA ZE NO MI NI SI MI DI MI TO HU KE UO KU

MA・NI

(あきかせのみにしみじみとぶけゆくまんに)

寂寞向秋草 悲風千里来

(せきばくととしてしゆつそうむかひばひふうせんりよ
りきたる)

WO MO I DA SI TE WA NE RA RE NA I

(おもいだしてはねらわないう)「(初一オ)

HI TONO KU TI DI NI WU TU RI GI HA YA KU

(ひとのくちびにうつりぎはやく)

酌酒与君君自寛 人情翻覆似波瀾

(きみとさけをくんできみおのづからくわんなりにん
じやうへんぶくはらんにたり)

SA I TE MA MONA KU TI RU HA NA DI

(さいてまもなくちるはなび)「(初一ウ)

末の MA TSU YA MA 浪越とても

(まつやま)

座観垂釣者 徒有羨魚情

(いながらみるつりをたるものはいたづらにうをね
らぶじや(ママ)あり)

A DA SI 心はわじや MOTANU

(あだこ) (またぬ)「(初三オ)

妹背山とて TANO SI 中を

(たのしい)

風起春燈乱 江鳴夜雨懸

(かせおいつてしゆんとつみだるじつなつてやん(マ
マ)かゝる)

NI KU YA くだるもちのがは

(じくや)

「(初三ウ)

TAKE WO KAI TA RU BI YO OO BO NO OO RA WA
(たけをかいたるびよおぼのorraわ)

玉関殊未入 少婦莫長嗟

(ぎよくくわんにじつまだいらさずしよじふながく
たするなかれ)

TA SHI KA NA KA YO I SO ZO ME KA TA

(たしかなかよいそぞめかた)

OO WA KA WA WO TO KO NO TSU NE TO WA I HE
DO

(しわきはおとじのしねとはいへ)

謫居吾無情 閩中我日過

(つぎきよきみひなむなこみんちんわれもよもわらじ)

YO KU NI YA KA TA CI NI SHI TE HO SHI I

(よくにやかたぎにじつほし) 「(初四ウ)

FU DI NO 山ほふ恨は A RE DO

(ふじの) (あなぢ)

誰憐不得意 長劍独归来

(たれかあはれぬいをえさずちよつけいひとりかへりき
たる)

いわでせけんを SI GI 山 YA MA

(し) (やま) 「(初五オ)

美濃がみの薄き TI GI RI YO 関守人に

(ちぎりよ)

忽聞歌古調 帰思欲沾巾

(たちまちこちよつうたをきくきしきんをつるおち
んとほつす)

HE DA TE なられたる不破の川

(くだじ) 「(初五ウ)

OO KI KU SA NO YO HU NI OH MA YE MO ときんき
ちんせ

(ときくちのちぶにをまくも)

此翁白頭真可憐 伊昔紅顔美少年

(じのおじはくとうしんにあはれむべしじれむかじ
いがんのわじちね)

WA KAI TO KI KO SO NI DO WA NA I

(わかいときこそどはな) 「(初六オ)

MA TA KU RU TO OH MO I NA GA RA MO WA KA

RE NO ZU RA SA

(またくるとおもいながらもわかれのしふち)

去国魂已遠 懷人淚空垂

(くこをさつじんとすびじよをこひよををまをてなん
だむなしくたる)

MO SI MO TO OH KU YE I KI YA SE NU KA

(もしもとをくへいきやせぬか) 「(初六ウ)

馬車の MU MA 車 NA KE RE 車

(むま) (なけれ)

驅馬薊門北 北風辺馬哀

(むまをかつてけいもんきたほくふうへんばかなし
む)

KE SI TE 外おば向きやせぬ

(けしつ) 「(初七オ)

TO O KU HA NA RE TE A I TA I TO KI WA

(とじくはなれてあいたいときは)

回頭瞪目時一着

(じじくをめぐらじめをむじじくときじじじかんす)

SI YA SI N KI YA OO MI TE KI OH HA RA SU

(こやこなきやじみじきをばなす) (初十ウ)

YA MO ME GU RA SI NO WA TA SI NO OH TI YE

(ちもめぐらじのわたじのじちウ)

双燕双飛繞書梁 羅帷翠被鬱金香

(ちひえんならびとらびむらじもじをならすひんじ

じじじウ)

SU O KU HU ZU DA ME NO ZU RA NI KU YA

(ちきくはじはめのひなじくや) (初八オ)

ME OH TO GU RA SI NO ZU BA ME DE SA YE MO

(めじとくはじのこばめじくも)

此郷多畚王 慎勿厭清貧

(このきまじをおんじじじんでせしひんをいとふな

かれ)

TA BI NO SU MA I DE KU RO O SU RU

(たびのすまいでくろおする) (初八ウ)

SIA SIN きやじじははなじがじきめ

(こやこと)

聖朝無鬪事 自覚諫書稀

(せいちやうけしじなし みづからおぼへんかんじよ

まれなり)

KA KE TE きんたや TERE GA RA HU

(かけて) (つれがらふ) (初九オ)

KI MI OH きよ夜は KI MO のきんきよ

(きみを)

(きま)

載歌春興曲 情竭為知音

(すなはちうたのじゆたきよんきよくぢのじくすち

いんのためなり)

用事たのむま AH TO YA ちち

(あじや) (初九ウ)

NE N GA TO DOI TE MA I DA RE TA SU KI

(ねんかとどいてまいだれたすき)

願作貞松千歳廿 誰論芳權一朝新

(ねがはくばじじしちひつとなりせんちをふりんたれ

かろんぜんほじせんじちやうあなたなり)

MA MA NI NA RU MI NO SO ME UU KA TA

(ままになるみのそめゆかた) (初十オ)

SINO BU かひなち SA WA BE NO 蛸

(しのぶ)

(ちたぐの)

誰念北楼上 臨風懷謝公

(たれかおもひほくろんじちひつかせをのぞんでこやじ

じもつ)

I YA NA 風が DI YA MA ちちる

(いやな) (こやま) (初十ウ)

I ZU NO MA NI YA RA MO O SI UO DI NO MA ZO

(いづのまにやらもおしゆびのま)

美酒尊中置千斛 載妓隨波任去留

(びしゆせんちじせんとじくをおくまのせじちちち

よじじにかす)

HO KA KE TA HU NE GA MI UO RU DUO YE
 (ほかけたふねははやいもの) 「(初十一才)
 HU OO HU GEN KA WA ME TSU KA NO 月よ
 (ふつぶんかはみつかの)
 十千兌得余杭酒 二月春城長命杯
 (じうせんかへえたりよかづのさけにけししゆんじよ
 うてうめいのはい)
 一夜一夜に MARU KUNARU
 (まるくなる) 「(初十一才)
 暑くなしたもよぐは DA SA DU
 (ださず)
 人生有情淚沾臆 江水江花豈終極
 (じんせいじようありなんだをうるおすじつすじつ
 くわあについにきはまる)
 じつと KORA YE RU 定齋じり
 (じらえる) 「(初十二才)
 秋の YO KA DUE が身じ SIMI DI みん
 (よかせ) 「(つみつ)
 不知乘月幾人歸 落月搖情滿江樹
 (しらずつきにじよじつくばくひとかへるらくげつ
 じやうをづつかしてじつじつみ)
 TI YO KI じやちむかる天の GA WA
 (ちよき) 「(がは) 「(初十二才)
 AZU KU NA RA DU NI SA ME NA I YO ONI
 (あつくならずにさめなつよひ)
 独無外物牽 遂此幽居情

(ひつらべつざんのひくなくじじのゆんぎよの
 じよん)
 KO KO GA KO KO RON NO KAN DO O KO
 (じじがじじのかんじ) 「(初十三才)
 SE KAI WA MARU IMO NO DA TOI YE DO
 (せかいはまるいものだつえん)
 至尊含笑催賜金
 (しそんわらいをぶくんできんおたまらんじよもよ
 ず)
 SO RENI WA TA SI WA ME WA KU RENU
 (それいわたしはめはくれぬ) 「(初十三才)
 A MAI 咄じつじつげん
 (あまい)
 諛言反復那可道 能令君心不自保
 (ゆけんはんぷくなんそゆづぐよくきみがじんを
 してやすんぜず)
 A TO DE KU YA SI YA ちけるむね
 (あひくやつせ) 「(初十四才)
 OO TSU TE OOTA RE TSU HUO HU の中も
 (うつつたれつぶんぶ)
 去年上策不見収 今年寄食仍淹留
 (きよねんじよじつくおちめらねてじんねんのきじよ
 くちつえんじつち)
 切る器も延る SO DA
 (そば) 「(初十四才)
 ズんせ YA KE だち KO HU NARU 上は

(やけ) (じつなる)

脱帽露頂王公前 揮毫落紙如雲煙

(ほうをだつしゆたゞきをあらさずおつじつのみへふで
をとるかみをおとすうんえんのじつ)

NANNO 他人のそらいけん

(なんの) 「(初十五才)

A K I R A M E M A S I T A Y O D O H U A H K I R A M E T A

(あきらめましたよどふあきらめた)

宅中歌笑日紛紛 門外車馬如雲屯

(たくちうのかしようひぶんぶんもんぐはいのしや
ばくものごとくあつまれ)

A K I R A M E R A R E N U T O A K I R A M E T A

(あきらめられぬとあきらめた)「(初十五才)

支那西洋国字度々逸 二

朝香楼芳春画「(表紙)

支那西洋国字度々逸

船亭さく

よしはる画「(見返し)

支那西洋国字度々逸 二 編序

夫度々逸と一元中昔より始めり其文句に曰く「わしが
どゞいつはどゞいつでよいが主のどゞいつはみのつま
りドヽイッドイドイとはやせりしか写りかはりし写真
にもとづき船亭主人が横文字に唐詩を入しはまた新ら
しくやつてくれたと御差図によぶよぶ二編も出帆致せ
ば咽も蒸気の廻りよく走る美声の御口にまかせて御乗

合の君達が御評のよきよふ願ふになん

明治未初秋

石炭之香織述「(一才)

K A O N I M O M I D I N O T S U I A R A W A R E T E

(かきにもみじのついあらわれつ)

樹樹皆秋色 山山惟落暉

(じゆじゆみなじつじよくさんさんたゞらひき)

A D A N A O O K I N A N O T A T S U T A Y A M A

(あたたなつきなのたつたやま)「(一才)

G I R I N S E K A R E T E K I R E T A R U A T O W A

(きりにせかれてきたるあとほ)

何日平胡虜 良人麗遠征

(いつれのひかじりよをたじらげつらせひんせんせ
いをやめん)

H A R I Y A A N M A N O K O T O B A K A R I

(たじやあんまのじつばかじ)「(一才)

K E I S E I N I M A K O T O N A I T O W A T A G A I I S O

M E T A

(けいせいにかことないとはたがいいそめた)

成陰結実君自取 若問傍人那得知

(かけなしみをむすぶことはきみみづからとれもしほ
うじんととはばなんぞしることをえん)

K O K O R O W A H I T O T S U N I Y A I W A R E N A I

(こころわひとつにやいわれな)「(一才)

N U S I N O A R U N O W A M O T O Y O R I S E O O T I

(ぬしのあるのわもとよりせつち)

載歌春興曲 情竭為知音

(すなわちうたうしゆんきちのきよくじせうはしく
すちいんのためなり)

O MOI KI RU KI WA NA I WA I NA

(おもいきるきわないわいな)」(三六)

KA NE MO KA RA SU MO TO KE I MO NA KE RI YA

(かねもからすもとけいもなけりや)

更疑天路近夢与白雲遊

(ちらにうたうしゆんちかきかちゆめはくはくと

あそぶ)

WA TA SI YA O MA WE O O KO SI YA SE NU

(わたしやをまををうたせぬ)」(三七)

KO MA NI HU MA RU RU

(こまにふるふる)

若草たくも

田田返前浦 孤琴又摇曳

(あんげいぜんぼにうたうしゆんまたあつあつ)

舞いや一夜の

YA DO O KA SU

(やどをかす)」(四〇)

いまわせんなぎ

TO KA NO KI KU TO

(とじかのきくと)

已見松柏推為薪 更聞桑田变成海

(すでにみるせうはくくだけたきんとなるうた

にきくそうでんくたじつみとなる)

NA MI DA KU MO RI SI

(なみだくもり)

あきのくれ)」(四二)

NANI WO I OO TA KA KA N HIN SAN SE

(なにをいうたかかんんさんせ)

焦遂五斗方卓然 高談雄弁驚四筵

(せつすいごつまをいたくせんじんだんゆんくた

んをおどるかす)

SA KE GAI WA SE TA GU TIDI YA MO NO

(さけがいわせたぐちやもの)」(四三)

SA KE O NO MU NO WA O MA WE TO HU TA RI

(さけをのむのはをまえとぶたり)

花際徘徊双蛺蝶 池辺顧歩面鴛鴦

(くわさいはうくはうすきんけいしんちくんにほすり

やうあんわん)

MU TSU MA SI IDE WA NA I KA I NA

(むつまじいではなうかいな)」(四五)

SI YO TE WA TO RO O TO I MA DE WA HI TO NI

(しよてはとろおといまではひとに)

北園新栽桃李枝 根株末固何転移

(ほくゑんあらたにうゆとりのくだんしゆいまた

かたからずなんそつんす)

TORA RE MA I TO TE MA TA KU RO O

(とられまいとてまたくるを)」(四六)

TA ME O O MO WE BA

(ためをおもえば)

あわれませまつ

松間明月長如此 君再遊兮復何時

(せうかんめいげつとしなへにかくのことしきみさ
いゆうまたいつれのときぞ)

爰か苦がいの

MANNAKA

(まんなか)

かいな」(六ウ)

MA TE DO KO NU 夜は気がおちつかぬ

(まてぎぬ)

江鳴夜雨懸 晨鐘雲外湿

(こうなつてやうかゝるしんしゃつんくはいこうる
をじ)

ぢれつたいとて TITAWAN DUA KE

(ちやわんぞけ) 「(七オ)

身は爰よほねわいそ辺

SARA SO TO MA MA YO

(やらそとままよ)

惜君只欲若死留 富貴何如草頭露

(きみをおしんでくしじととゞめんとほつすふじきな
んそしかんそつとうのつゆ)

いかしちや人でに

WATA SANAI

(わたせな)「(七ウ)

IMA WAD O IOO KO KO RO DE I RU KA

(いまわどをいこうくるでいるか)

古来名利若浮雲 人生倚伏信難分

(こらいめいりふうんのじやうじんせいふくまじと
にわかちかたし)

聞てくれよ

SA KI NO MU NE

(さきのむね)「(八オ)

KA WAI GA RARE RI YA NA O TSU KI A GA RI

(かわいがられりやなをつけあがり)

秋声万戸竹 寒色五陵松

(こうせいばんじのたけかかんしよべいじらまのまつ)
SU NE TE MI SE TA RUNI WA NO MA TSU

(すねてみせたるにわのまつ)「(八ウ)

SIN SO KO HO RETA TOWA TA SI NO MA NE O

(しんそこほれたとわたしのまねを)

此曲祇応天上有 人間能得幾回聞

(このきよくだってんじやうにあるべことんげんよく
つくたびかくじとをいた)

KU TI YO RI KO KO RO DE SI TE HO SI I

(くちよりこうろでしてほし)「(九オ)

MA TSU NI KA I NA KI TSU I KAN SI YA KU GA

(まつにかいなきついかんしやくが)

古来容光人所羨 況復今日遙相見

(こらいようこうにひとのひらやむとじんらわんやまた
じんにちはるかにあいみんとね)

SIRANUSIYO KAINIYATSU ATARI

(しらぬしよかにやあたり)「(九ウ)

NI KU KU TE BU TSU NO TO O MO OONAKISERU

(こくくつてぶつのおおもひなきせる)

与君相向転相親 与君双楼共一身

(きみとあいむかしてうたてあいしたしきみとならび
すんでいつしんをもとにせん)

KA WA I KE RI YA KO SO KU TI MO SU OO

(かわらけりやしそくちまかん)(十才)

WA SU RE GU SA NA RA HI TO HU SA HO SI I

(わすねぐさならひとふちほつ)

正有高堂宴 能忘渾誓心

(まやどいじやうのゑんたあひよくちほのじまんをわす
れんや)

I KE TE NA GA ME TE WA SU RE TA I

(いけてながめてわすれたい)(十才)

SU YE NO YA KU SO KU KA KU MA KI GA MI NO

(すゑのやくそくかくまきがみの)

秋風吹不尽 総是玉関情

(あきかぜふきつくたすすべていれなきよくわんのじ
ちひ)

TSU GI ME HA NA RE TE MO NO O MO I

(つぎめはなれてものおもひ)(十一才)

A KI NO NO NI DE TE NA NA KU SA MI RE BA

(あきののこでてななくちみれば)

廻風一蕭瑟 林景久参差

(くわいふういつしつせんじつしんけいひせししくしづく
ちつ)

O MO I A RI SO NA HA GI SU SU KI

(おもいあひそなほきすすき)(十一才)

MU ME NO KO BO KU NI HI TO BA N NE TA RA

(むめのこほくにひとばんねたら)

不知乘月幾人歸 落月摇情滿江樹

(しらすつきにじよいつしらくはくひつかくるふく
じつちをいつかいついつにゆけ)

HANA NI TA WA WA MU RE KO NO SU GA TA

(はなにたわむれこのすがた)(十一才)

UO I TA TE NO KA MI NI SA WA RA RE WA SI YA

HARA GA TA TSU

(ゆいたてのかみにさわられわしやはらがた)

洛陽女兒惜顔色 行逢落花長歎息

(らくやうのじよじがんじよくをおじむゆくゆくふ
かにおひながくたんそく)

I OO TE MU SI RA SU HI TO GA A RU

(いづてむしらすひとがある)(十一才)

吉人寝の MA KUR A (まくら) をびじきその度事に

冷然夜遂深 白露沾人袂

(れいぜんとちるついにふかしはくるじんまじをひる
をす)

I TO DO (いづ) 眠が MASU (まゆ) わこな(十
三才)

ないた覚へはわしや NA KE RE DO MO (なけれども)

宛転蛾眉能幾時 須臾鶴髪乱如糸

(えんてんたるがびよくいくばくときぞしゆゆくはく
はつみたれいとこのまつ)

ぬれて気の附 MA KU RA (まくら) がみ」(十三ウ)
やつれ果たる WA TA SI (わたし) の姿

但見淚痕濕 不知心恨誰

(たゞみるるいこんのこるをつかしらずこゝろたれを
かうらみん)

MIRU MO (みるも) はづかし水鏡」(十四オ)

IMA (いま) じゃ女夫に鳴海のゆかた

年々歳々花相似 歳々年々人不同

SO DE (そで) をしほるりし事もある」(十四ウ)

IMA GO RO WA DO KO NI DOO SI TE 居ちんすぢら

(いまじろわどこにどひこつ)

停梭悵然憶遠人 独宿空房淚如雨

(さをとゞめてちようぜんとしてえんじんをおもつひ
とりくつぼつにしゆくしてなんだあめのとこ)

WO MOI (おもい) すじすも癩(じゃく)の TAN (た

ね) E」(十五オ)

NU SI NI NI KA RE TE SU DU RI NO OO MI NO

(ぬしにひかれてすずりののみ)

常随去帆影 遠接地長天勢

(つねにきよはんのかげにしたかつととつちよつて
んのいきほいをせかす)

SI O NI HI KA RE TE MU NE NO SI YA KU

(しをにひかれてむねのじゃく)」(十五ウ)

支那西洋国字度々逸 三

芳春」(表紙)

支那西洋国字都々一

船亭美吉撰

朝香楼芳春画」(見返し)

近頃文明開化の世の中には。まり哥うたふ児守婦(こ
もりこ)まで字を知文を学せよふと老婆心者(しんせ
つもの)の頼みを引請鼻押強くも鼻歌にうたう小唄の
都々一唐詩洋書をかき交て綴り合せて合本なせとも基
より乏才(やば)拙文のわたし故通世事者(いきな
かた)の不備(いれず)貴覽(ごらん)只々小児のた
わむれと其言訳を書記序文??紙半分をふさけるもの
は 船亭三好述」(一オ)

MA TSU NO MI DO RI NO FU TA RI NO NA KA WA

(まつのみどりのふたりのなかわ)

百年同謝西山日 千秋万古北邱塵

(ひゃくねんおなしくしやすせいさんのひせんじうば
んじほくほのちり)

HANA RE MA IZO YE TO MO SHI RA GA

(はなれまじぞくともしなが)」(一ウ)

I SA GI YO KU NU SHI WA TA TSU TO TE MI DSU

SA KA DSU KINI

(いさぎよくぬしたつとつみづか(きき)
烽火照西京心中自不平

(ほしくわせいけいをつらすしたつおのつからた
ふかならむ)

NA KA NU WA NA KU NO NI MA SU O MOI

(なかぬわなくのたますおもい)」(一オ)

YU WU DA TI SO RA TO WA I TU DI WU RA YO

争名争利徒爾為 久留郎署終難遇

(なおあらしりおあらしくたつじかひつちくへん
じつよじつまつつじつにあく)

SE MI TO HO TA RU NO KO N KU RA BE

(せみとほたるのこくふぐ)(六木)

I RO I RO NA HI TO NO KO KO RO WA SA TE A RU
MO NO YO

(いろいろなひとのこころをわすれぬまのちよ)

欲渡無舟楫端居恥聖明

(わたさんとほしつてしつじつなしたんきよつてせし
めいをほし)

SU I GA MI O KU OO FU SHI A WA ZE

(すがみおおくふしあわせ)(六木)

KI RA KU DA RO OO TO MI NA I OO KE RE DO

(きらくだらじつみないしけなむ)

清謂東流劍閣深 去住被此無消息

(せいいつりうけんかくふかじきよじつかわれし
ちふそくなつ)

MU NE NO SHI N KU WA HI TO SHI RE ZU

(むねのつらくむむじつぢぢ)(六木)

YO SO DE TSU I TA RU KO SO DE NO SHI WA YE

(よそでついたる小袖のこわえ)

相逢伝旅食 臨別換征衣

(あいをふてりよじよくをつたいわかれにのそんでせ
いをかぶ)

BI NO SHI KA KE RU MO SHI YA KU NO TA NE

(ひのじかけるもじやくのたね)(七木)

YU DAN WA DE KI NU TO ME NI KA DO TA TE TE
(ゆだんわできぬとめにかたてつ)

願作輕羅著細腰 願為明鏡分嬌面

(ねがわくはけいらとなつてせいらよぶにしかくねかわ
くはめいきよぶとなつてきよめんをわかた)

O TSU NA SHI OO CHI NO YA MA NO KA MI

(おつなじつちのやまのかみ)(八木)

O MA I YU I NA RA I NO CHI MO TO MO NI

(おまいゆうならいのちもとも)

承恩咸已醉 恋賞未還鑣

(おんをひけてみなすしつちぶなとつせにつらまた
ひやくをかくちぢ)

SU TE RU KO KO RO NI YA TA RE GA SHI TA

(すてるこくろにやたれがした)(八木)

I MA GA KAN JIN SIN BO WONO SI DO KO

(いまがかんじんしんぼのじど)

城池百戦後 耆旧幾家残

(じやうちひやくせんのおちせちのこぼるる
じゆ)

SU I TA WA TA GA I NO KA TA RI GU SA

(すいわたがいのかたりぐさ)(九木)

NU SHI NO MU RI NI WA MA KO TO NI KO MA RU

(ぬしのむりにはまじとじまる)

胡塵一起乱天下 何処春風無別離

(じつちひとたひおしつてんかみだるるつれのじゆ)

るかじゆんばうじりなつ)

IOO TE SU TE TE WA O KA RE NA WI

(うらひつちんわおかねなつ) (九六)

O MA I GA YA BO NA RA KU RO OO WA SHI NA I

(おまいかやほならくるじりなつ)

人生有情淚沾臆 江水江花豈終極

(じんせくじやうありなんだおくせいのるせいのじりなつ)

じじくわあじりじきわまらなつ)

DA RE GA MI TA TO TE I KI JI YA MO NO

(だれがみたとてらきこやもの) (十才)

FU TO SHI TA KO TO KA RA TA GA I NI I MA WA

(ふとじたじとからたがいらいまわ)

桃花昨夜撩乱開 当軒発色映楼台

(とうくわちやくやりちゆうはなとつじりうらなつたにめた

じりるをはじりるふたいらいあなつ)

I RO KA A RA SO O MU ME SA KU RA

(いろかあらそおもむめさくら)

DO OO SE A KU WIN KO OO NA RI YA MA MA YO

(どおせあくむたじりなつちまなち)

君不見今人交態薄 黄金用尽還疎索

(きみみせずじりなつたじりたじりなつちまなつちまなつ

ちまなつちまなつちまなつちまなつちまなつ)

KI SHI YA OO SE I SHI WA NE NI YA FU ME NU

(きしやおせいしひわねにやふめぬ)

NU SHI WO HO ME RE BA WA SHI YA KI GA MO ME

RU

(ぬしおほめればわじやきがもめる)

此時相望不相聞 願逐月華流照君

(このときあいのぞんじあいきかずねがわくはけつか

おをぶてなかれこきみをしなつ)

KU SA SE BA NA O SA RA HA RA GA TA TSU

(くさせばなをらはながたつ) (十一才)

MO SHI YA NU SHI KA TO SHI YO OO JI O A KE RI

YA

(もじやぬつかとじりなつちまなつちまなつちまなつちまなつ)

明月高秋迥愁人独夜看

(めいづつかうじりなつちまなつちまなつちまなつちまなつちまなつ)

TSU KI NI HA DSU KA SHI WA GA SU GA TA

(つきにほつかしわかすがた) (十一才)

FU DE NO TA YO RI NI YA O MO I NO TA KE O

(ふでのだよりにやおもいのたけを)

去国魂已遠 懷人淚空垂

(くこおせこじりなつちまなつちまなつちまなつちまなつちまなつ

なつちまなつ)

YU WU MO KO KO RO NO TI RA SI GA KI

(ゆむもくろくのちらさぎ)

I RO NO MI CHI NA RA I CHI RI MO NI RI MO

(いろのみちならいちりもにりも)

日月逢相 臨瀟々過 瀟々

(つげのせなかにせなつちまなつちまなつちまなつちまなつちまなつ

ちまなつちまなつ)

YA MA NO NA KA TO TE I TO YA SE NU

(ちまのなかとてしとせぬ) (十三下)
 SHI NA GA WA WA NI TSU PO N JA NA I A RI YA TE
 NI KU YO
 (こながわんとしぼんじちならありせとてつとち)
 日月逗前浦孤琴又揺曳
 (めんけしせんほじゆんじゆんまためんけん)
 SA KA NI DA I BA GA A RU WA I NA
 (ちかにだいはがあるわいな) (十三下)
 HA NA BI GA TO RI MO TSU KO I JI NO YA MI NI
 (はなびがとりもつじゆのやみ)
 鸚鵡随波千万里 何処春江無月明
 (めんめんとしてなみにしたかつせんまんりつれの
 とじるもしゆんじゆんじゆのあきらかなるなつ)
 CHI RU TO I OO JI GA KI NI KA KA RU
 (ちるとつじがきにかる) (十四才)
 HI JI O MA KU RA NI TSU I WU TA TA NE NO
 (ひじたまくらにいついたたねの)
 但看古来盛名下終日坎壈纏其身
 (たゞみるこらへせいめいのもとしゆづつかんりん
 そのみにまひら)
 NE MU RU MA MO NA KU NU SHI NO YU ME
 (ねむるまもなくめしのゆめ) (十四下)
 TSU KI NI YA MU RA KU MO HA NA NI WA A RA
 SHI
 (つきにやむらくもはなにわあらつ)
 夜来風雨声 花落知多少

(やららぬこのじゆはなおもひるじゆつたぬたじゆん
 ぞ)
 WA SHI NI YA YA RI TE NO KO WA I KEN
 (わじゆせらつじゆわらけた) (十五下)
 YO OO YO OO TO SHI NO BI O OO MA MO A RE NA
 SA KE NAI
 (よんよんこのびおじまもあねなわけなつ)
 青山忽已曙 鳥雀繞命鳴
 (せくせんたちまちあつじあくなればちせつせつせ
 おめぐつなぐ)
 TO RI WA KO I JI O SHI RA NA I KA
 (とりわじゆおこらなつか)
 芳春画 (十五下)
 支那西洋くぐつヱんしつ 四
 舟亭三好作
 朝香楼芳春画 (表紙)
 支那西洋国字都々逸 四編
 船亭三好撰
 朝香楼芳春画
 山兄書 (見返り)
 若き時は血気内にあまりて心路物うごきて情欲多しと
 徒然に言しも色と情にめでゝ世の人情もありなむ流行
 の小唄も倭国の風俗なりよりて西洋の文字もて都々一
 のうたおかけり中に唐詩の端を交て小児のうたひよか
 らん事を思ひそのさまは画もてしらしむれば自然西洋

のかなと唐詩の風只小児のはやく覺ひ安からむ…(二)
と)しかり

「兄弟誓水誌」(一六)

FU SA GU MA KI RE NI MI RU MU ME GO YO MI
(ふさぐまかれにみるむめじよみ)
東風吹尽断腸花 郎未归来妾在家
(とうふうふきつくすたんちやんのはなをのじまた
かへりきたらすしやういくにあり)
HON NI WA TA SHI TO NI TA KU RA OO
(ほんにわたしもしたくらの)」(一七)
HA NA MI GA I RI NI MI SO ME TA NA KA DE
(はなみがいりにみそめたなかつ)
絶勝京洛傾城色 鎖向候門作侍郎
(たいかききやうくはくせうせうのうらやとくじに
まんにむかふつじをのへる)
DE KI TA KO NO KO WA SA KO RA N BO OO
(できたじくのこわさくらんぼお)
A RE SA O YO SHI YO MI RA RE CHI YA NA RA NU
(あれやおよしよみられちやならぬ)
洛陽女兒名英愁 英愁十二能織綺
(らくやうじよめなむらねぢやならぬ)
なぐきをぬる)
HA NA WO WORU NA TO KA I TE A RU
(はなををるなとがいつぬる)」(一八)
SU DA NO KA WA HU NE MI SU I NO I TO NI
(すだのかわはなむねみすいのいとし)

醉倚東風和月色 情人扶上柳橋辺
(よふてとぶふうにちよしてつきいろにくわすかじん
たすけのほるひつきやせいのくさ)

MU SU BI TO ME TA YA TIRU SA KU RA
(むすびとのたやせぬやう)」(一九)
SA SA WO SU WE SHI TA HA NA NI NO HI TO WA
(ささおすじしたはなみのひとは)
青天有月来幾時 我今停杯一問之
(せいつんじしちあひきたるじよくべくよき…われ
いまちよをよめじつじれをよせ)
KA WO MO SA KU RA NO I RO TO NA RU
(かをまゆくのうらやならぬ)」(二〇)
MA MA NI NA RU NA RA SA KU RA NO HA NA NI
MU ME NO KA HO RI WO MO TA SETAI
(ままになるならやうのせなしなめのかおひもた
せたら)
簫鼓鳴兮初棹歌 歡樂極兮哀情多
(ちよぶじなしてたひかをせしつかなんきむおして
あつじやいおつ)」(二一)
HI TO NI YA A KA SA NU KO KO RO NO HA NA MI
(ひとにやあかやぬじよのせなみ)
満庭新種桜桃樹 桃花昨夜撩乱開
(まにじよのつなづけのうらひのつゆいんべわわせ
つせにんたとくつうらふ)
MO SHI O SA KU RA TO TO DO ME SA SU
(めしおさくらととどめさす)」(二二)

NU SHI GA MU ME NA RA WA TA SHI WA SA KU
RA TO KA KU HI TO ME NI TSU KI YA SU I
(ぬしがむめならわたしわちくわんとかくひよめじち
やすい)

以色危身豈不知甘心死別不盛離

(いろをもつてみをあやしめあじくわんたやじんろ
のしくべしをあまんじせしをはなれず)」(五木)

SU I NA NI HO I NI TSU I HO RE KO N DE

(すいなにほいにしほわんた)

孤山処士風流遠 招得梅花枝上魂

(こざんのしよじふりゆへいおぶこまねきいたりは
つくわじつやひのたまこつ)

MU ME MI MU ME MI TO KO ~ TE KU RU

(むめむめみとくべつくる)」(五木)

A TSU KU NA TSU TA RU KO KO RO MO SHI RA ZU
SE MI NO HA WE RO MO OO SU NA SA KE

(あつくなたるじんるもこなめせみのせいじんまひち
ななけ)

白狐跳梁黃狐立我生何為在窮谷

(びやうじうちやうりよひじつたしわがせいなんぞき
しじくじあひ)」(六木)

NA KI GA O O NA O SU KA GA MI NI HA TSU SE N

YA KO I

(なきがをんなをすかがみにはしせなやじつ)

蜀魄千年尚怨誰 声々啼血染花枝

(しよくはくせんねんなをたれをかじらみんせいせい

ちじなつしつむじきをぞむ)

CHI RA RI TO RI KA GE NE DSU MI NA KI

(ちらりとりかげねこみなき)」(六木)

I MA NO TO RI KA GE KO KO RO NI ME DE TE

(いまのとりかげじくるにめでて)

鶯声日沸笙歌奏 富貴春光別一家

(をうせいひつわきたつてしよふかをそひすぶらじきの
つゆたじくべつじつかあひ)

SO TSU TO KO BO SA NE KE SHI YA OO MI DSU

(そつとくほちぬけつやんちん)」(七木)

I TSU KA TA N I N NO CHI GI RA NU OO CHI NI WA

TSU TE MI TA SA YO MA KU WA OO RI

(いつかたじんのちぎらぬおちしつわひつみたちちま
わひつ)

開破一団混沌囊 判然紅玉滴香漿

(かいはいつせんじんとんのつはんぜんたるじんちち
くつきかひつやん)」(七木)

NU I TA HA WO RI MO WO MO WA SE BU RI YO

(ぬいたはをりもをわせぶりよ)

有客有客字子美 白頭乱髮垂過耳

(かくありかくありこびならせくんのなとせひ
へいたねつすべ)

CHI YO TSU TO KA KE TA RU YO SHI BI YA WO BU

(ちよつとかけたるよとびせびん)」(八木)

WO TSU KI SA MA SA I KA SA KI RU YO WA NI

(をつきさまさいかさきりよわに)

梵天空濶月成輪 蜀魄声声似訴人

(ぼんでんくうかしてつきにわをなすしよくはくせいせいとつてひとにうつたふにたり)

SHI YA OO CHI DE FU RA RE RU SA TO GA YO I

(こやうちでふらわるさどがよい)(八ウ)

HI TO ME SHI NO N DE A KA RI O KE SE BA

(ひとめしのんであかりをかせ)

春華滄江月 秋色碧海雲

(つゆたつわそつじののこきつにこよくきかしのくま)

NI KU YA KU MO MA NO TSU KI GA SA SU

(にくやくまのつぎがさす)(九ウ)

NU SHI NO KO KO RO WA X V YA SA MA YO I TSU

MO KA DO NA I HO DO NO YO SA

(ぬつのじに十五やまよつしもかひないほのよち)

唯願当歌対酒時 月光長照金尊裡

(ただねがはくはまをにうたつたふてさけにたいするときげつかうちやうこやうきんそのうち)(九ウ)

MI O MO HA NA SA NU O O GI JI YA NA I GA

(みおもはななぬおもおぎじやないが)

白土聽中鬪落葉 応憐寒女独無依

(はくちちくそつちひらくちぶをきくあわれむくしかごよみひちちるじやない)

A KI GA KI TA TO TE SU TE RA RE TA

(あきがきたとてすてられた)(十ウ)

A KI GA KI TA TO TE SA TSU PA RI MI I NU

(あきがきたとてさつぱりみいぬ)

柳条折尽花飛去 借問行人歸不歸

(りじょうじつおひらねしくはなとびるこやまらずゆくひとかいるやからなるや)

FU TA RI GA YE N MO KI RI GI RI SU

(ふたりがえんまきりぎりす)(十ウ)

WO NA JI NO NI SA KU O BA NA DE SA I MO

(おなじのにくおはなびさす)

君歌揚叛児 妾勸新豊酒

(きみはうたつちぶはなのつたせつわちんむつたほのそち)

HI TO O MA NE GU NI YA WO MI NA I SHI

(ひつおまねぐにやのみないし)(十一ウ)

SHI KA TO HE N JI MO MA DA SE NU OO CHI NI

(しかとくんじもまだせぬちひ)

若使偶然通一笑 半生誰信守孤燈

(もじげんげんとつてつこつせつをひんげつめばなかはしやうつてしなずじやうつをまもらな)

MO MI JI FU MI WA KE KA YO OO HI TO

(もみじふみわけかよひひ)(十一ウ)

KI YA SU ME TO SHI RI TSU TSU NO TSU TA KA NO

HI TO NO

(きやすめとつりつひのつたかのひの)

暮色蒼然上桮台 廢塘尚有数荷開

(ぼしよくそつせんつつやたつこのはるはつとつ)

てなおすつかのひなへるあつ)

A WA SE BA O RI NO HO DO NO YO SA
(あむせはおりのほむのちや) (十一カ)

I MA NI I KI MA SU WE TSU SHI YO NI O YA RI
(いまにいきますあつこちにおやつ)

總含西嶺千秋雪 門泊東原万里船

(まどにはせつれいせんしゅうのあきをふくみかどには
つぐべはりのふねをたくす)

KA DO NI TA TSU TA RU YA KU HA RA WI
(かどにたつたるやくはらゐ) (十一カ)

KU MA DE KAN ZA SHI SHI MA DA NI SA SHI TE
(くまでかかんぞつまだにやつ)

願作貞松千歳古 誰論芳權一朝新

(ねかわくはつしやうとなつせんぞいふりんたれ
かるんせんほんきんしゅうちやひじあたらなるじとを)

KO YO I WA FU TA RI DE TO RI NO MA CHI
(こよいわふたりひじこのまた) (十三カ)

TSU GA WI HA NA RE NU TO RI TO WA WE WE DO
(つがいはなれぬとりよはあや)

鷺鷥尾上警然声 厚寝宮娥夢裏驚

(いんのうぐわじやひしくせんたるいあちんこのあ
しがゆめのうちにおむん)

O SHI NO FU SU MA NO MI DSU KU SA I
(おしのふすまのみにふく) (十三カ)

NU SHI TO KO YO I WA HA TSU NE NO MA TSU RI
(ぬしとこよいわはあつねのまつり)

閨中莫妬啼粧婦 陌上須慚粉 郎

(けいちゅうのむらむるじよなこしりつやひらばへつやう
すべからくたのぐこふたはくなん)

MO TSU TA WENA I ZO YO FU KU NO KA MI
(もしたあないうちぶくのかみ) (十四カ)

MO MO YO KU RU MA NO TA TO I WA O RIHO KA
(ももよくるまのたをわをるか)

雪正飛時梅正開 佳人我雪折庭梅

(ゆきまやどぶぶよきうめまやどひなへかじらゆきど
かしてついでいをゆる)

YU KI NO FU RU HI MO KA CHI HA SDA SHI
(ゆきのふるひまかちせだつ) (十四カ)

TSU KI GA SA YE TA TO WO WO KI NA KO I DE
(つきがやえたとををきなこいで)

二月春城長命杯 酒後留君待明月

(じふにのしゆんしやうをひめさのせつづゆいあち
をよめつめらびひをまひ)

A TO WA HI SO HI SO YEN NO HA SHI
(あつわひそひそえんのせつ) (十五カ)

マノヨ JIRE TSU TAI KU MO ME GA I DE TE
(まのよじれつすたいくもめがいであ)

満山明月東風夜 正是愁人不寢時

(まんざんげつとうふうのよちまやどいじなつてつと
つゆねのよち)

TSU KI NO SA WA RI TO NA RU TSU RA SA
(つきのさわりのなるとらさ)

(こらへりやこらなるいともなヌ) (七六)
 O MO HI O MO HI SHI KO YO WI NO SHI YU BI NI
 (おもひおもひこらよめるしゆびに)
 (同朝がほ)「こがれ初たる恋人と語ふ間さへ夏の夜の
 短ひ契りのほひない別れ」
 NO KO RU SO DE NO KA WA SU RA RE ZU
 (さるそでのかわすられず) (八才)
 TSU RA HE KU GA WI MO YO OO YO OO A KE TE
 (こらへくがゑもよつちあけつ)
 (同大功記)「十八年もその間御をんはづみ山かへがた
 っ」
 KO OO TO WO MO WI SHI HI TO MO NA I
 (いじゆをもゑこひともな) (八才)
 HA NA WA SA KU RA TO SE JI YO WO DE I YE DO
 (はなわさをくらとせじゆでいよど)
 (同大功記)「討死にするは武士のならうと思つ合はれ
 っ先立ふいひはゆるこつた」
 KO NU NI YA ~ MA RA NU HI TO WA BU SI
 (いぬぢやゝまらぬこつた) (九才)
 DO OO SE SO WA RE NU A KU WE N NA RA BA
 (どおせそわれぬあくゑんならば)
 (同大功記)「わしが事は思ひ切つて他家いゑん付してト
 れぢや」
 KA MI WO O RO SHI TE A MA TO NA RU
 (かみをおろしてあまとなる) (九才)
 TSU TO ME SU RU NO MO WO MA I NO TA ME YO

(こつめするのをもまいのためよ)
 (同稻川)「わごかな金にせつまつてななきをじやんす
 がわしやごかなこつ」
 WA SHI GA KO KO RO NO TSU DSU KU DA KE
 (わしがこころのつくだ) (十才)
 HA NA NO OO I NO DE MI SO ME TE YO RI MO
 (はなのおいでみそめてよりも)
 (同大功記)「あなまり聞くぬ光義様こつげんをくも
 すまぬ内討死とは曲がな」
 YO RU NO A RA SHI NI CHI RI TO NA RU
 (よるのあらしにちりとな) (十才)
 KO WI NI KO GA RE SI HO TA RU JI YA NA I GA
 (こゝろがれしほたるこやな) (十才)
 (同朝かほ)「またも都を迷ひ出づこかは廻り逢ふ坂
 の関路を跡に近江路やみの尾張をへ定めなく恋し恋し
 目を泣潰」
 I KU YO MA TSU MU SI NA KI A KA SU
 (いよまつむしなきあかす)
 O MO HI TSU ME TE MO SO WA RE NU NA RA BA
 (おもひつめてもそわれぬならば)
 (同朝かほ)「石に成たる松浦瀧ひねふる山のかなこみ
 せ」
 I SHI WA O RO KA YO JI YA NI MO NA RU
 (いしわおろかよじやにものなる)
 HA NA I KE NO MI DSU NO KA KA RI SHI KO NO FU
 RI SO DE YO

(はなうけのみづのかかり)「うのぶらそびよ」
 (同大)「うき十段目」(のしるこほみの花一つ水上かね
 づかせと)「
 TA MO TO BA KA RI GA NU RE SHI YA OO SU
 (たもとばかりがぬれこせぬ)」(十一行)
 SU GA RI TSU I TA RU YO RO I NO SO DE NI
 (すがりついたるよるいのそびと)「
 (同大)「うき」(十次郎が討死はかねこの覚悟はく様に
 泣顔見せもこちとなれて未来永く縁切ぞせ)」
 KO BO SU NA MI DA NO SAN ZU GA WA
 (いぼすなみだのせとちがむ)」(十二行)
 YU ME NO WO KI YO NI TSU REN A I WA TA SI
 (ゆめのうきよもじつれなうわたつ)「
 (同大)「うき」(じんなな破御をしながら是が別れの盃か
 じ)「
 SA ME TE NE ZA ME GA YO HI MO NO KA
 (せめしなせめがよひせのか)」(十三行)
 HA NA NI A RA SHI WA A RU YO TO SHI RE DO
 (はなにあはじつあるよじつたじ)「
 (同あせかほ)「身を戻したるかくもななく泣く明石の風
 待じたまた其逢は逢ながら」
 KO WI O JI YA MA SU RU KA ZE NI KU WE
 (こゝろをこせまするかせじとくせ)」(十三行)
 KO NO YO DE SO WA RE NU A KU WIN NA RA BA
 (このよでそわれぬあくるなならば)「
 (同大)「ふき」(夫の討死遊ばすを妻かしくいで何とせ

ぶ二世も三世もゆひとせと思はし居るじなやけなつ」
 HA SU NO OO TE NA NI FU TA RI DSU RE
 (はすのひなほはたごひた)」(十四行)
 A YA YA NI SHI KI NO SHI TO NE O SHI WI TE
 (あややじつきのこじなほじつ)「
 (同廿四孝)「身や姫」かのかほぶとて思はし居るじな
 のつみせ」
 NI WA NO OO GU HI SU HA TSU NE KA RA
 (にわのひぐちちひなかな)」(十四行)
 I MO SE YA MA DE WA WA SI YA NA KE RE DO MO
 (いもせやまじわわじやなせなせま)「
 (同あせせ)「ぬれ酒が」はるゝむつのは馬十の眼な
 ら面白がるなつゝ振もたてじつせ」
 MO TO ME TE KU RO HU O SU RU WA WI NA
 (もつめつゝくろはるおるむつな)」(十五行)
 NI SE TO KA WA SE SHI FU TA RI GA NA KA WO
 (にせとかわせしふたりがなかな)「
 (同俊寛)「かみ」はるる我がほをためしすがめし
 ちながめ」
 MA YU GE O TO SHI TA HO DO NO YO SA
 (まゆげおとじたほのよれ)「
 若春筆」(十五行)

八、『漢洋取交』都々逸図会
 (菊池所蔵)

「漢洋取交」都々逸図会 式編」(表紙)

漢洋都々逸図会

式へむ」(見返し)

凡例

先の日漢洋取交都々逸図会の初編発兌せし所殊の外好人の君の請が能其所で書肆も乗が来て式編の催促屢なり早速跡を穂繼(つぎほ)と思へど暑は実に甚しく机上に向へば蒸るゝごとく(一オ)少し趣向を考ゆれば案よりさきへ眠気がさし是では成らぬと憤発(やつぎ)となり漸円(まと)めし十丁を度々使説の口?に渡して一ト息つくと爾云

辛末の孟秋

蓮池散人 光齋しるす」(一

ウ)

売色「ばいしよく」(いろをあきなふ)するみともへぎのかやはひとに釣拘「こつこつ」(つりつる)よをあかす」(一オ)

うめがわらへばきもつきつきと「聞説梅花早何如此地春」いつかくらひもわすれむ」(二ウ)

HO DO MO WON NA MO KI DA TE MO YO I GA WO
SO RE MA SHI TA YO CHI YA WAN ZA KE (ほむも
おんなもきだつもちいがおそねましたよちやわんぞ
け) (三オ)

つきのまるをど路「ねんる」(じつぢ)のみちは鄙「ひ
な」(いなな)も都会「とくわご」(みやご)もおなじ
ごと」(三ウ)

きよくすいにのせてながせしあのためづさは「渭水東

流去何時到雍州」いつかどとらんぬのつへ」(四オ)
NI HA NO MA TSU GA WE A YA KA RI MO NO YO I
TSU MO KA WA RA ZU A WO A WO TO (しほのま
がゑあやかりものちつしもかわらぬあをあを) (四
ウ)

まつよ更行「かつかう」(ふけゆく)あの郭公「かくか
う」(ほととぎす)はないてあかせのつこつらか」(五
オ)

もはやたそがれかへそにやならぬ「陰雲帯残日悵別此
何時」またのうげんをおもひむ」(五ウ)

TO OO ZA KA RU NO MO MI NA GI RI DSU KU YO
KO RE MO HI TO ME NO SE KI YU HE NI (うんちか
るのもみなぎりひくちねもひとめのせきぬへ) (六
オ)

塞「そく」(ふたへ)のやせき「来迎」(らいかう)「き
たりむかふる)ときつていつか鬱気「しつき」(むすほ
ふるこころ)もどくやら」(六ウ)

よくのかはかせひまじつひのる「為問門前客今朝幾箇
来」かどにわたるのかつのぶ」(七オ)

SU HE NO SU HE MA DE A KA SHI TE WO I TE KI
RE RU O MA HE NO GI RI SHI RA ZU (ちくのちくま
であかしておつてきれるおもくのきつこふ) (七ウ)
さみだれに濕濡声増「つこつちせつせつ」(ぬねぬる
こへをます)あの朝魂がなつこつたすがらつこら」(八
オ)

ひがないちにちわしややまめべり「白日依山尽黄河入

海流」うちしやたにまにぬのせらじ」(八ウ)

SO RA HA HA RE TE MO MA DA HA RE YA RA NU
MU NE NO KU MO RI HA KI NO MA YO HI (そら
はれてもまだはれやらぬむねのくもりはきのまよひ)」
(九オ)

うめにや黄鳥「わうちやう」(つぐひす)たけにはすゞ
めきみと僕「ほく」(やつかれ)とは漆煮皮「しつせん
び」(しるじにかは)」(九ウ)

のきのしづくにあきかぜしみて「淮南秋雨夜高齋聞雁
来」あはれもよふすかりのこゑ」(十オ)

YU ME DE NA RI TO MO KO KO RO NO TA KE WO
TSU OO JI SA SE TA YA WA GA WO MO HI (ゆめで
なりともこゑのたけをしつじさせたたやわがをも
ひ)」(十ウ)

注一 国会図書館のOPACで都々逸本を検索すると、『英語都と逸 第2輯』(911.9-E38)という本が出てくる。この本を見ると、実は、『荷堂半水の』「言語注解」英語土渡逸』二輯であった。一部破損・丁抜けがある。

注二 国会図書館蔵本は、原表紙・見返しがない。更に、第十五丁目が第二編のものである。

注三 東京都立中央図書館特別文庫室東京誌料所蔵『和漢洋三体都々』(仮題)』は、『支那西洋国字度々逸』初編の一部(四丁目、十五丁目)である。

注四 『支那西洋国字度々逸』三編は、関西大学所蔵本に拠った。関西大学図書館は、著作権の切れたものであれば、翻刻に際し許可願を提出することなく、自由に翻刻してよいとのことである。

注五 国文学研究資料館のOPACで都々逸本を検索すると、『横文字詩入都々逸』(ハ1:131)という本が出てくる。この本を見ると、実は、『支那西洋国字度々逸』八編である。